

【第1日目】11月26日（土）

開会挨拶

実行委員長

盛岡大学・短期大学部 学長 徳田 元

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました徳田でございます。  
一言ご挨拶を申し上げます。

最近、文部科学省から子どもたちの未来の資料を見せられます。これはアメリカの学者の予測した未来なんです。それによりますと、現在の子どもたちの6割以上が大学を出て就職するときには、現在無い職業につくということが1つ、今後10～20年、半分近くの職業が無くなるこれが2番目。このような結果として多くの職業が無くなっていくだろう、どれくらい無くなるかはわかりません。何をわれわれがすれば良いのかよくわかりません。

最近お医者さんと話したことがあります。この人は、日本の糖尿病治療のトップで権威のある方ですが、その方も診断に迷うときがあるが、そういう場合ロボットを導入したほうが、はるかに角度の高い診断ができるのではないかと考えておりました。つまり、医療の分野でもこれからは、人工知能が良いのではないかなどの検討がなされているとのことです。当然そうなるであろうと思います。

ロボット、人工知能、人工頭脳とかまったくそぐわないのが保育、幼児教育ではないか考えております。聖域といっても良いのが保育、幼児教育分野だと思っております。それだけに今後ますます保育士のレベルアップというものが極めて重要な課題になろうと、素人ですが考えております。

この、東北ブロックセミナー北上大会が、そういった点について非常に充実した議論がなされるのではないかとそのように期待しております。

私のこういう期待を申し上げてご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、よろしくお願ひ致します。

東北ブロック会長挨拶

東北福祉大学大学院 研究科長  
渡辺 信英

皆さんこんにちは

今日はこの東北ブロックセミナー北上大会にお集りたまわりまして大変ありがとうございます。

今年は特に、岩手県の保育士養成校の皆さんには、本当に感謝感謝です。8月24、25、26と3日間にわたって全国セミナー研究大会が開かれたわけですけど、保育士養成のアフォーダンスというわかったような、わからないようなテーマでやりましたところ、今までで一番参加者があったということ、全国の理事会に行くたび、本当に集まるんでしょうか、集まらなかったら赤字を出すから困ると。先ほどの理事会で、どうやら赤字どころか、予想以上の人が集まってくれました。確かにブロック会長として参加して非常に内容の濃い大会だったと感謝しております。そういう熱い、まだあ〜良かったな〜という心を引きずっているんですけど、まだ大変な中で又、今日お引き受けいただきまして、養成校の先生方には本当にお礼を申し上げます。

テーマとすれば、現実的で且つ重要な保育・教育の現在の動向、今後の流れ、これらがテーマでございます。保育、教育、ざっくり言ってケアとエディケーション、というつながり、あるいはインテグレーション、一部がつながっている、それぞれ独立する、このような問題は3歳からの教育になるといってもそこにはやっぱり養護、教育ケアが入りますでしょうし、いろんな深いテーマがあろうかと思えます。とにかく子どもの乳児からずっと育てるということは、子どもの重要な物語を作ってあげる、その中にエビデンスもあります。子どもをきちんと育てるといって、重要な学生を育てる先生方でございます。これからも、今、学長先生が言われたように、機械的ではない全人格的、全人間的なそういう関りであって、初めて保育士養成ができるかと思えます。

そんなことを心に持ちながら、この2日間を過ごそうと思っております。皆さんにとっては、有意義な2日間でありますようお願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひ致します。